

美里町病院事業新改革プラン

平成 30 年度点検・評価

令和 2 年 1 月

美里町立南郷病院運営委員会

1 収支計画と決算状況

(1) 平成30年度収益的収支 (単位:円)

区分		計画	決算	比較 (※)
収入	1. 医業収益 a	509,617,000	490,893,684	△18,723,316
	(1) 料金収入	423,015,000	404,361,181	△18,653,819
	入院収益	259,140,000	255,287,014	△3,852,986
	外来収益	163,875,000	149,074,167	△14,800,833
	(2) その他	86,602,000	86,532,503	△69,497
	うち他会計負担金	36,294,000	36,294,000	0
	うち基準内繰入金	26,294,000	36,294,000	0
	2. 医業外収益	194,310,000	193,569,577	△740,423
	(1) 他会計負担金	150,114,000	150,315,000	201,000
	うち基準内繰入金	150,114,000	145,196,000	△4,918,000
	(2) 他会計補助金	13,592,000	13,391,000	△201,000
	(3) 国(県)補助金	—	—	—
	(4) 長期前受金戻入	29,104,000	29,070,000	△34,000
	(5) その他	1,500,000	793,577	△706,423
	経常収益 (A)	703,927,000	684,463,261	△19,463,739
支出	1. 医業費用 b	672,557,000	645,935,835	△26,621,165
	(1) 職員給与費 (K)	310,485,000	291,162,611	△19,322,389
	基本給	145,090,000	135,103,087	△9,986,913
	その他	165,395,000	156,059,524	△9,335,476
	(2) 材料費	85,170,000	73,777,351	△11,392,649
	うち薬品費	52,343,000	42,057,362	△10,285,638
	(3) 経費	118,146,000	114,702,379	△3,443,621
	うち委託料	68,795,000	67,177,542	△1,617,458
	(4) 減価償却費	49,485,000	50,940,515	1,455,515
	(5) その他	109,271,000	115,352,979	6,081,979
	2. 医業外費用	36,784,000	33,668,308	△3,115,692
	(1) 支払利息	17,891,000	17,780,634	△110,366
	(2) その他	18,893,000	15,887,674	△3,005,326
	経常費用 (B)	709,341,000	679,604,143	△29,736,857
経常損益(A)-(B) = (C)		△5,414,000	4,859,118	10,273,118

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

区分		計画	決算	比較 (※)
特別損益	1. 特別利益 (D)	—	—	—
	2. 特別損失 (E)	—	—	—
	特別損益 (D)−(E)=(F)	—	—	—
純損益 (C) + (F)		△5,414,000	4,859,118	10,273,118
累積欠損金 (G)		533,691,000	496,691,630	△36,999,370
流動資産		231,475,000	274,379,140	42,904,140
うち未収金		65,567,000	57,460,503	△8,106,497
流動負債		162,060,000	165,018,033	2,958,033
うち未払金		35,467,000	37,924,606	2,457,606
単年度資金収支額 = (前年度流動負債−前年度流動資産) − (当年度流動負債−当年度流動資産)		△32,598,000	△19,994,978	12,603,022
※翌年度繰越財源なし				
累積欠損金比率(G)/a×100		104.7%	101.2%	
医業収支比率 a/b×100		75.8%	76.0%	
経常収支比率(A)/(B)×100		99.2%	100.7%	
職員給与比率(K)/a×100		60.9%	59.3%	

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

一般会計等からの繰入金の見通し	計画	決算	比較 (※)
収益的収支	200,000,000	200,000,000	0

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

収益的収支の評価：2 概ね達成できた
経常収益では、医業収益の計画が達成できなかつたが、経常費用全体で費用を抑制できしたことから、経常損益について、黒字にすることことができた。経常損益では、赤字額を生じさせないことが最大の目標であることから、次年度以降も職員全体で黒字を維持できるよう取り組む必要がある。

※ 3段階評価 (1 達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかつた)

(2) 平成30年度資本的収支 (単位:円)

区分		計画	決算	比較 (※)
収入	1. 企業債	20,000,000	28,000,000	8,000,000
	2. 他会計出資金	—	—	—
	3. 他会計負担金	57,860,000	57,878,000	18,000
	うち基準内繰入金	57,860,000	57,878,000	18,000
	4. 他会計借入金	—	—	—
	5. 他会計補助金	—	—	—
	6. 国(県)補助金	—	—	—
	7. 工事負担金	—	—	—
	8. 固定資産売却代金	—	—	—
	9. その他	—	—	—
	収入計 (a)	77,860,000	85,878,000	8,018,000
	うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額(b)	—	—	—
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	—	—	—
	純計(a)−{(b)+(c)} (A)	77,860,000	85,878,000	8,018,000
支出	1. 建設改良費	20,000,000	30,802,097	10,802,097
	2. 企業債償還金	97,675,000	97,709,307	34,307
	うち建設改良のための企業債分	97,675,000	97,709,307	34,307
	3. 他会計長期借入金返還金	—	—	—
	4. その他	—	—	—
	支出計 (B)	117,675,000	128,511,404	10,836,404
差引不足額(B)−(A)= (C)		39,815,000	42,633,404	2,818,404
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	39,815,000	42,389,496	2,574,496
	2. 利益剰余金処分額	—	—	—
	3. 繰越工事資金	—	—	—
	4. その他	—	243,908	243,908
	計 (D)	39,815,000	42,633,404	2,818,404
補てん財源不足額(C)−(D)= (E)		0	0	0
企業債残高		513,706,000	521,671,522	7,965,522

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

一般会計等からの繰入金の見通し	計画	決算	比較 (※)
資本的収支	57,860,000	57,878,000	18,000

※比較の△表記は、決算が計画に対して不足する金額を示す。

資本的収支の評価：2 概ね達成できた

※3段階評価 (1 達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかった)

2 病院の現状

(1) 病床数と診療科目

種別	平成29年度末	平成30年度末
病床数	一般50床	左に同じ（変更なし）
診療科目	5科目（内科、外科、小児科、眼科、整形外科）	左に同じ（変更なし）

病床数と診療科目の評価

医師と看護師の確保に努め、病床数と診療科目を平成29年度と同じ体制で維持することができた。

(2) 経営形態と決算状況

種別	平成29年度末	平成30年度末
経営形態	地方公営企業法財務適用	左に同じ（変更なし）
決算状況	純損失 9,460,433 円（詳細は省略）	「1 収支計画と決算状況」のとおり

経営形態の評価

地方公営企業法の財務適用から全部適用に変更する理由がなく、財務適用を維持した。

(3) 職員配置

種別	平成29年度末	平成30年度末
	正規職員 33 人	正規職員 33 人
職員配置の実績	非常勤職員 17 人（実人数） 臨時医師 2.63 人（常勤換算） (詳細は省略)	非常勤職員 17 人（実人数） 臨時医師 2.67 人（常勤換算） 詳細は「別表1」のとおり

職員配置の評価：2 概ね達成できた

医師と看護師の確保に努め、必要職員数を確保することができた。他の職種においても、医療サービスの提供に不足が生じない体制を維持することができた。

※3段階評価（1 達成できた 2 概ね達成できた 3 達成できなかつた）

別表1 平成30年度職員配置の目標と実績

職種	雇用形態	目標	実績 (※)	実績の説明
医師	正規	2人	2人	
	臨時	2人	2. 67人	一日の勤務時間を8時間として換算した数
	非常勤	1人	1人	
看護師	正規	17人	15人	
	非常勤	2人	2. 7人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週35時間勤務3人)
准看護師	正規	8人	7人	
	非常勤	2人	2. 0人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週31時間勤務2人) (週16時間勤務1人)
看護補助員	非常勤	8人	6. 3人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週35時間勤務7人)
診療放射線技師	正規	1人	1人	
臨床検査技師	正規	2人	2人	
	非常勤	1人	0. 4人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週16時間勤務1人)
薬剤師	正規	2人	2人	
管理栄養士	正規	1人	1人	
事務職	正規	3人	3人	
	非常勤	1人	0. 6人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週24時間勤務1人)
労務職	非常勤	1人	0. 4人	一日の勤務時間を8時間として換算した数 (週16時間勤務1人)

※年度末時点での配置状況を基に算出

3 医療機能数値目標

(1) 患者数

区分	平成29年度	平成30年度		
	実績	目標	実績	目標に対する増減
救急	613人	825人	476人	△349人
外来	21, 453人	23, 750人	19, 528人	△4, 222人
入院	13, 211人	12, 957人	14, 724人	1, 767人

- ・救急の人数は、時間外・深夜、土・日曜日、祝日、年末年始の延患者数。
- ・外来の人数は、時間内救急患者、眼科、人間ドック、健診、予防接種等を含む延外来患者数。
- ・入院の人数は、延入院患者数。

(2) 目標とした患者数を受入するための標準医師数と標準看護職員数

区分	平成30年度		
	標準数	実績数	標準数に対する増減
医師数	4. 375人	5. 67人	1. 295人
看護職員(看護師及び准看護師)	16. 00人	26. 7人	10. 7人

- ・標準数には、届出を行った施設基準や救急医療体制に必要となる人員は含まれていない。

(3) 人口の推移に関する参考資料

①美里町の人口 (美里町町民生活課：美里町行政区別人口一覧表より)

基準日	美里町全域	旧南郷町地域	旧小牛田町地域
平成30年4月1日	24, 656人	5, 620人	19, 036人
平成31年4月1日	24, 565人	5, 540人	19, 025人

②当院を中心とした半径5km以内の人口 (総務省統計局ホームページ e-Stat : G I S機能より抽出)

基準年	抽出人口	備考
平成22年	19, 261人	国勢調査による統計データを基に、条件を
平成27年	18, 453人	選択して抽出した人口

医療機能数値目標の評価：3達成できなかった

患者数は、入院患者数の目標を達成できたが、救急患者数及び外来患者数は、目標を達成することができなかった。目標を達成できなかった要因については、地域の人口減少及び長期処方等が大きな要因と思われる。目標の達成は必要と思われるが、地域住民が医療を必要とした時に、医療体制に不足が生じないよう職員を確保しておくことが最も重要である。

地域医療を支えるために必要な医師と看護師を確保していることから、目標を上回った入院患者数があっても、医療体制に不足が生じることはなかった。

※3段階評価 (1達成できた 2概ね達成できた 3達成できなかった)

4 経営の効率化（使用電力量の抑制）

（1）平成30年度使用電力量の目標と実績

使用電力量の目標値	使用電力量の実績値
429, 249 kwh (一月当たり平均35, 770 kwh)	450, 663 kwh (一月当たり平均37, 555 kwh)

（2）平成30年度月別使用電力量実績と平均値超過量

月	使用量実績	目標一月当たり平均超過量	実績一月当たり平均超過量
4月	36, 169 kwh	399 kwh	△1, 386 kwh
5月	22, 691 kwh	△13, 079 kwh	△14, 864 kwh
6月	21, 164 kwh	△14, 606 kwh	△16, 391 kwh
7月	27, 697 kwh	△8, 073 kwh	△9, 858 kwh
8月	33, 280 kwh	△2, 490 kwh	△4, 275 kwh
9月	29, 711 kwh	△6, 059 kwh	△7, 844 kwh
10月	23, 947 kwh	△11, 823 kwh	△13, 608 kwh
11月	33, 094 kwh	△2, 676 kwh	△4, 461 kwh
12月	52, 183 kwh	16, 413 kwh	14, 628 kwh
1月	61, 477 kwh	25, 707 kwh	23, 922 kwh
2月	63, 149 kwh	27, 379 kwh	25, 594 kwh
3月	46, 101 kwh	10, 331 kwh	8, 546 kwh

（3）平成30年度宮城県鹿島台の平均気温資料（気象庁のホームページより）

月	平均気温	最高気温平均	最低気温平均
4月	10. 6°C	17. 1°C	3. 6°C
5月	15. 7°C	21. 3°C	10. 8°C
6月	19. 3°C	23. 4°C	15. 6°C
7月	24. 5°C	28. 9°C	21. 1°C
8月	23. 8°C	28. 1°C	20. 2°C
9月	19. 6°C	23. 7°C	15. 9°C
10月	14. 4°C	20. 3°C	9. 0°C
11月	8. 1°C	14. 5°C	2. 2°C
12月	2. 2°C	6. 8°C	-2. 4°C
1月	0. 4°C	4. 6°C	-4. 7°C
2月	1. 5°C	6. 8°C	-3. 8°C
3月	4. 7°C	11. 0°C	-1. 7°C

経営の効率化（使用電力量）の評価：3達成できなかった

「経営の効率化」として、使用電力量の抑制を目標に掲げていたが、年間の使用量実績は、平成29年度に続き目標を超過する結果となった。

平成29年度の年間使用電力量は、目標が431, 407kwhであり、実績が480, 284kwhであったことから、実績を前年度比較した場合では、29, 621kwhの減少が確認できた。

平成30年度の使用量を月別で確認したところ、使用量の月別推移は前年度と同様となっており、冬季の使用量が大きく、平均気温が10°Cを下回る月の厳しい冷込が考えられる。平成29年度は1月と2月の平均気温がマイナスであったのに対し、平成30年度は平均気温がマイナスとなった月がないことから、前年度より暖冬であったことが要因で、使用量の減少に繋がったものと捉えている。

厳しい冷込が施設全体を冷やすのに対し、空調に採用しているエアコンで快適な温度を保つには、相当の電力量が必要である。冬期間の使用電力量を抑制する手段として、施設の断熱効果の改善が考えられ、容易にできる取組みとして、窓ガラスへの防寒シート設置を平成30年度から実施している。防寒シートの取組みは、試験的なものとして始めたもので、医師当直室と看護師当直室を対象としており、どの程度冷え込みを抑制できるか、当直従事者の意見を聞きながら実施している状況となっている。

※3段階評価（1達成できた 2概ね達成できた 3達成できなかった）

5 地域医療構想を踏まえた役割及び再編・ネットワーク

平成30年度連携医療機関実績

連携先医療機関の所在	連携先医療機関の数	診療情報の提供（当院から医療機関等への紹介等）件数	情報提供の受入（医療機関等から当院への紹介等）件数
美里町	8 (8)	84 (65)	92 (101)
涌谷町	7 (6)	56 (60)	80 (61)
大崎市	28 (17)	234 (210)	215 (222)
栗原市	1 (2)	1 (2)	5 (1)
松島町	1 (1)	1 (1)	1 (0)
石巻市	13 (4)	84 (72)	95 (92)
東松島市	8 (3)	50 (47)	77 (64)
登米市	2 (1)	2 (1)	0 (0)
塩釜市	1 (1)	2 (1)	2 (0)
仙台市	25 (16)	32 (36)	52 (50)
南三陸町	1 (—)	1 (—)	0 (—)
大和町	1 (—)	2 (—)	3 (—)
その他施設等		52 (88)	3 (34)
合計		601 (583)	625 (625)

() 内の数値は前年度実績のもの。

連携医療機関の評価：2概ね達成できた
「美里町病院事業新改革プラン」の「地域医療構想を踏まえた役割」では、「具体的将来像」として医療機関等との連携が重要としており、これまで以上の連携を進めることとしています。
また、「再編・ネットワーク」では、「現在の状況」と「医療圏内の病院等配置の現況」で連携状況を記載しています。
これら連携の実績として、平成30年度の患者紹介状況を分析した結果、連携先の範囲は、美里町が含まれる大崎・栗原医療圏のほかに、近隣の石巻市や東松島市など県内の広範囲にあったことを確認した。
患者が一日も早く回復できるように、医療機関が相互に連携を活用して、それぞれが持つ機能を最大限に活かし、安定した医療体制を構築できるよう引き続き連携に努める。

※3段階評価（1達成できた 2概ね達成できた 3達成できなかつた）

6 総合評価

平成30年度総合評価

「美里町病院事業新改革プラン（以下、本プランという。）」の取組み2年目として、収支計画では、数年振りに経常損益で黒字となり、これまでの累積欠損金を減少させることができた。

医療機関等との連携状況については、宮城県内の広範囲において、専門の医療機関で質の高い医療を受けられるよう連携を継続して進めてきた。

平成28年11月に宮城県が策定した地域医療構想では、人口構造の見通しや今後必要とされる医療機能別の病床数等が示されており、本プランの点検では、人口減少といった地域の実情を確認することができた。地域の人口減少については、外来患者数の減少を加速させる要因の一つとして捉えることができ、不採算地区病院の環境として、さらに厳しいものと考えられる。

なお、当院では、医療機能を急性期としているが、地域の実情として、回復期や慢性期といった入院患者の受入も必要となっており、できる限り連携を活かして進めている状況にある。

一般会計からの繰入金については、本プランの収支計画に基づき、平成30年度の実績が収益的収支で2億円となっており、支出の財源となっている。収益的収入は、外来収益や入院収益といった医業収益が基本となるが、その収入だけで支出を賄うことができないため、一般会計からの繰入金を財源としている。

赤字を発生させない取組みは引き続き必要であると考えられるが、公立病院を運営していく上では、地域の実情に応じて不採算となった医療体制に対して、一般会計からの繰入金が重要である。